

3個人・1団体たたえる

しらかみ地の塩基金 地域への貢献を顕彰

能代市の地域奉仕団体「しらかみ地の塩基金」（丹波望代表）は14日、同市柳町の旧料亭金勇で「顕彰・感謝の集い」を開いた。地域のため献身的に活動する

能代山本の3個人・1団体を顕彰し、敬意を表した。また、受賞者がそれぞれの活動状況や思いを発表し、参加者が理解を深めた。

同団体は5年に設立。地域貢献の志を持って長く活動してきた個人・団体に感謝と応援の気持ちを伝えようと、毎年顕彰事業を行っている。昨年までに8人が対象となった。

4回目となる今回の顕彰の対象は、向能代子ども食堂の腰山郁子さん、じょうみょうじ子ども食堂・浄明寺フードバンクの藤井真貴子さん、八峰町の八峰白神ジオパークガイドの会前會長の鈴木和人さんの3個人と市民おもしろ塾（渡邊耕佑代表）の1団体。

この日は受賞者、その関係者、一般市民など約30人が

3個人・1団体の地域貢献活動をたたえた



が参集。丹波代表は「地域には人知れず献身的に努力をしている人が存在する。私たちは『足引つ張り』ではなく、それを大切にしたいといけない。受賞者の働きをぜひ覚えてほしい。また、基金の働きにも理解と支援をお願いする」とあいさつした。

丹波代表が受賞者一人ひとりの活動の功績を紹介し、花束などを手渡した。参加者からは大きな拍手が送られた。続いて、受賞者がそれぞれ活動発表した。

このうち、向能代子ども食堂の腰山さんは、近隣の農家や企業、医師、友人などたくさんの方の支援を受けて続けていると紹介。子ども食堂に来る小学生の男の子から修学旅行の土産の菓子と手紙をもらい、手紙には「このあいだのカツ丼おいしかったです。次のピザ楽しみです。お世話になってるから、おみやげです」と書かれていたとし、「こういう喜びがあるので続けてこられた」と涙をこらえつつ

報告。「子どもたちが社会とのつながりを意識し、自己肯定感を持って成長することとは、地域の大人たちができる範囲で取り組むべき課題。皆さんも関わってくれたらうれしい」と呼び掛けた。